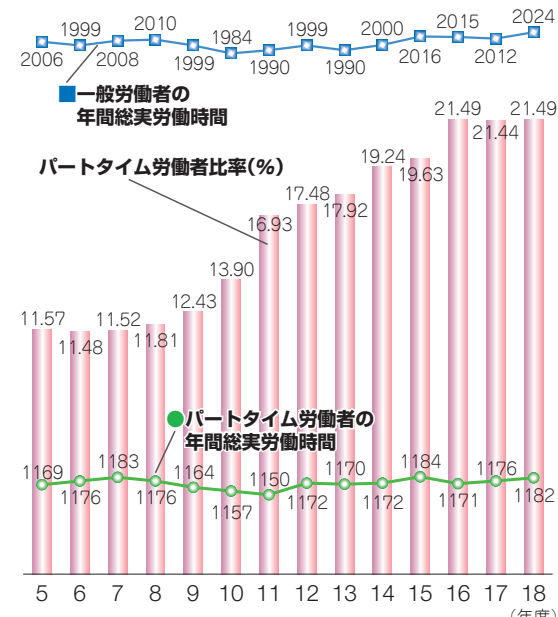


# 仕事と生活の両立が 困難な社会の状況

パートタイム以外の労働者が増加する一方、正社員の労働時間は長くなる傾向に。男性の長時間労働のために、女性は家庭を優先せざるをえない。

## ■一般労働者とパートタイム労働者の 年間総実労働時間



資料：厚生労働省「毎月勤労統計調査」より※事務所規模30人以上

## なぜ、ワーク・ライフ・バランスが必要？

「仕事」は私たちの暮らしを支え、生きがいや喜びをもたらしてくれます。同じく家事・育児・介護や余暇などの「生活」も欠かせない大切なものです。「仕事と生活」、この二つが充実していればこそ、人はいきいきと生きられるものです。

ワーク・ライフ・バランスとは、仕事、家庭、地域などの様々な活動において、自らの希望するバランスで自分の生き方を実現できることをいいます。

しかし、前頁のグラフからもわかるように、現実には、男性は「仕事中心」の、女性は「家庭中心」の生活を送っています。

また、社会の状況をみると、少

子・高齢化に伴う労働人口の減少、経済の低迷などにより、これまでの仕事中心の生き方や働き方では、企業や社会そのものが維持できなくなることが予想されます。こうした問題を解決していくためにいま注目を集めているのが、「仕事と生活の調和」をはかるワーク・ライフ・バランスという考え方なのです。

## 誰もが自分らしく生きられる社会に向けて

ワーク・ライフ・バランスは、「仕事と家庭の両立」に限りません。既婚・未婚、年齢に関係なく、誰もが取り入れることができます。ワーク・ライフ・バ

ランスがはかれれば、それぞれのライフステージに応じて、ある時期は仕事のスキルアップ、ある時期は子育てや介護、または趣味や自己啓発、地域活動や健康維持のための時間を充実させることができます。

もちろん、それには働き方を見直すことが必要で、企業の取り組みが欠かせません。働き方の見直しは、企業にとっても優秀な人材を確保できるだけでなく、社員の満足度が仕事への意欲に結びつき、業績の向上がはかれます。

企業が一人ひとりの能力を十分に活用し、生産性の高い働き方に転換すれば、社会の活力向上にもつながるのです。最近では、経営戦力のひとつとして、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む企業もみられます。また効率のよい働き方をすることで、個人の生活時間にゆとりができ、希薄となった地域社会にも活力をもたらします。

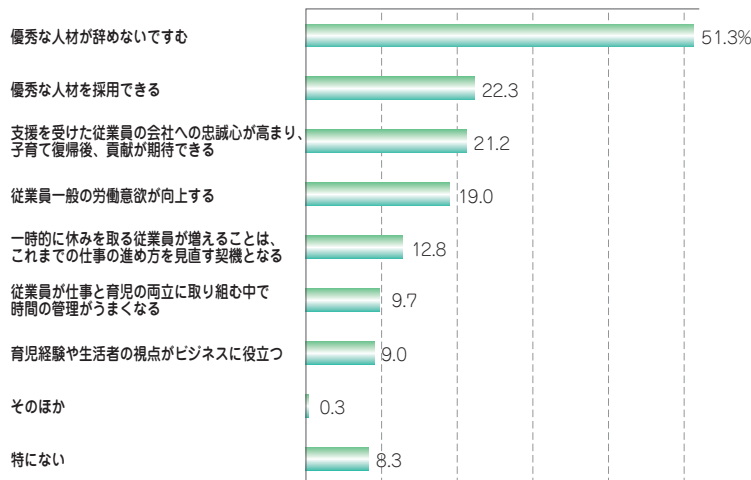
つまり、ワーク・ライフ・バランスは個人の生活だけでなく、企業や社会全体にとってもメリットのあることなのです。

長時間働いていけば、人々の暮らしが豊かになった時代は終わりを迎えています。一人ひとりがどんな働き方、生き方をしたいのか、見つめなおす時期にきている

## ワーク・ライフ・バランスは 企業にとっても有益

多くの企業が仕事と育児の両立支援により、優秀な人材を確保できると評価。また育児休業が利用されることにより「仕事の進め方について職場で見直すきっかけとなった」などプラスの評価が多い。

## ■仕事と育児の両立を支援する取り組みが企業業績に与えるプラス面



資料：(株)富士通総研「中小企業の両立支援に関する企業調査」(「中小企業白書」平成18年)より

のです。みなさんも自分らしく生きるために、自らのワーク・ライフ・バランスについて考えてみませんか。